

題名：少年問題と家庭環境の関係

静岡県 御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校 三年 石津 彩

近年、少年による問題行動が社会的な関心を集めています。その内容は、万引きや暴力行為など多様であり、私たちの身近でも起こり得る問題です。なぜこのような行動が増えてしまっているのか。そして私たちはどう向き合っていくべきなのか考えました。

少年の問題行動の背景には、さまざまな要因があると考えられています。その一つが家庭環境の影響です。親との関係がうまくいっていなかったり、生活に不安を感じていたりすると、子どもは心の居場所を失い、問題行動によって、その不満や不安を表現してしまうことがあります。また、スマートフォンや SNS の普及により、誰でも簡単に他人と関わることができる一方で、深い人間関係を築くことが難しくなっているとも言われています。

最近、家庭科の授業で「住まいと家族の関係」について学んだとき、この問題について深く考えるようになりました。授業では、間取りの工夫が家族のふれあいにどう影響するのかを考える課題がありました。たとえば、リビングの中に階段があれば、自分の部屋や寝室へ行くのに通る時も、自然と家族と顔を合わせやすくなる。一方で、部屋が廊下でバラバラにつながっていたり、個室ばかりが多い家では、それぞれの部屋にこもってしまい、家族との会話が減ってしまうという。先生は、「家のつくりは、家族の関係を育てるのにとっても大切」と話していました。

その話を聞いて、ふと思い出したのは、以前見かけたネットニュースに取り上げられていた一つの記事。その記事には、問題行動を起こしてしまった少年の家庭のことについて書かれていました。その彼の家は、玄関から直接二階の部屋へ上がってしまう間取りで、家族と顔を合わせずに部屋へ行くことができたそうです。また、家族全員がそろって食事をする時間はほとんどなく、それぞれが自分のタイミングで食事を取る。そんな生活だったと書かれていました。実際、文部科学省の調査によれば、問題行動を起こした少年の多くが「家族との会話が少ない」「一人で過ごす時間が多い」と感じているというデータがあります。つまり、家庭での人間関係の希薄さや居場所のなさ、心の不安やストレスを引き起こし、マイナスな行動に表れる場合もあるのです。このように家庭環境は、少年の問題行動に大きく関係しているのではないかと感じます。

人は、周りの環境によって精神的な影響を受けやすくなる。家の間取りから家族との関わりが減り、子どもに影響を与えることについて、もっと社会全体が敏感になるべきではないかと私は思います。「部屋が狭いから問題が起きる」という単純な話ではなく、「家の中でどう家族と関わり合っているのか」「心から安心できる空間はあるのか」が問われているのだと思っています。また、近年は共働きの家庭が増え、家族が顔を合わせる時間も減っています。せっかく家にいても、それぞれがスマートフォンやテレビを見ていて、まともに会話を交わさない家庭も多いです。私たち子どもにとって「話や悩みを分かち合えない」という環境は、とても深刻なことです。不安や悩みを打ち明けることができないまま、その不安や悩みを行動に移してしまうのかもしれない。

少年たちに限らず、他人の本心は表面だけを読み取っても、なかなか分からないものです。だからこそ、私たちが少年の問題行動に向き合うとき、それを単なる「悪い行為」として見るのではなく、その背景を探る視点が必要です。その子はどんな家庭環境に置かれているのか。安心できる空間はあるのか。そうした問いかけから始めることで、はじめて「本当の解決」に近づくのだと思います。子どもが安心して心を開ける空間を増やしていくこと。それが今の社会に求められる最も大切なことではないでしょうか。